

被爆77周年 原水禁世界大会

福島 大会



7月30日、「被爆77周年原水爆禁止世界大会・福島大会」が福島市・パルセいいざかで開催された。新型コロナウイルスの再度の拡大などのきびしい状況の中、検温や手指消毒、マスク着用の徹底、そして密集をさけるなどの対策を講じながら現地での集会を行い、約400人が参加した。藤本泰成・共同実行委員長が開会のあいさつ後、全体で黙祷を行い、現地福島から角田政志・現地実行委員長からあいさつ、福島第一原発事故被害者からの訴えを「福島原発かながわ訴訟団」の村田弘さんから受けた。続いて、シンポジウム「止めよう！福島第一原発処理水の海洋放出」が行われた。さらに、福島選出の高校生平和大使からこの間の活動について報告されました。「フクシマアピール」を現地実行委員会の後藤梨那さんが提起し、全体で確認し終了した。

8月4日、「被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会」の開会総会が広島市・グリーンアリーナで行われ、1200人が参加した。はじめに原爆被害者への黙とうをささげたのち、金子哲夫・共同実行委員長による主催者あいさつ後、広島県原爆被害者団体協議会の切明千枝子さんが被爆証言を行い、15歳で被爆、現在92歳になられますが、約30分にわたり自らの被爆体験を語り、そして核兵器廃絶・平和実現に向けた思いを訴えた。続いて地元広島の高中生平和大使と高校生1万人署名活動実行委員会のみなさんが登壇し、活動報告と決意表明を行いました。その後、広島県被団協の活動や高校生への支援が呼びかけられ、会場からは多くのカンパが寄せられた。5日には分科会・ひろば・フィールドワークと国際シンポジウムが開始され、3日目・最終日

となる8月6日、まとめ集会を行い、3日間にわたる広島大会での成果や課題を参加者のみなさんとともに確認し、「ヒロシマ・アピール」を採択し、広島大会が閉会した。

8月7日、長崎市・ブリックホールで被爆77周年原水爆禁止世界大会・長崎大会」の開会行事が行われ、約800人が参加した。川野浩一・共同実行委員長があいさつした後、被爆体験者で被爆体験訴訟第二次原告団が被爆者認定をかちとるためがんばる決意を述べ、引き続きの支援・協力を呼びかけや、高校生平和大使・高校生1万人署名活動実行委員会が登壇、活動報告と核廃絶に向けての決意を表明された。

8月9日、閉会総会が長崎県立総合体育館アリーナにおいて約850人が参加して開催された。TPNW第1回締約国会議が開催されるにあたり6月、開催地・ウィーンに派遣された第24代平和大使の2名が、日本語と英語で世界の人々に向けてのスピーチを披露した後、「ナガサキ・アピール」を全体で確認し、集会を終了した。その後、会場から爆心地公園に向けて「非核・平和行進」に出発。11時前に爆心地公園に到着し、原爆投下の時刻11時2分には参加者がいっしょに黙とうを捧げすべての行動を終えた。

全港湾としての参加者は、福島大会には東北地方青年部を中心に、広島大会は関西地方より、長崎大会には九州地方より参加したほか、各地域共闘からの参加があった。

7月30日に開催された被爆77周年原水爆禁止世界大会・福島大会へ参加させていただき、福島第一原発の現状や、これからの対応について学ぶ事ができました。トリチウム汚染水の処理方法などの現場で起きている問題点や、有事が起きてから11年経った今でも前に進めていない現状など、テレビでは見る事ができない貴重なお話でした。

原水禁に参加し、改めて人間と核が共存する事は出来ないと思いました。茨城には東海村に原子力発電所があり、再稼働に向けて動いています。事故が起きれば今の暮らしを失うことになるでしょう。事故が起きてからでは遅いのです。より良い避難計画が完成したとしても、津波がきても問題が無いように防波堤を作っても、事故が起きる可能性がゼロではない以上、再稼働させてはならないのです。その為にも地元から声を上げて廃炉に向けて活動していく事が大切だと思っております。

10月にはJCO臨界事故の集会があります。茨城で暮らす者として、ひたち支部青年女性部として活動を盛り上げて行きたいと思っております！廃炉を勝ち取ることを願って。

全港湾ひたち支部青年女性部 栗原 拓哉



広島
大会

開会総会は新型コロナウイルス感染の影響で3年ぶりの集会成为り、コロナ第7波にもかかわらず1,200名が参加しました。金子大会共同実行委員長から「プーチン発言の核兵器使用威嚇は許さない。日本政府、岸田首相には核なき世界の実現のために、核兵器禁止条約に直ちに批准することを強く求めます。」と開会の挨拶がありました。

2日目は核燃料サイクルと高レベル放射性廃棄物の分科会に参加しました。核燃料サイクルは破綻しており、使用済み核燃料が増え続けている。まずは原発稼働を断念し、これ以上使用済み核燃料を増やさないことが今すべきことだとありました。このように原発稼働には反対しなければなりません。

岸田総理は「核兵器のない世界の実現」と言いながら、核兵器禁止条約については触れませんでした。被爆の実相の理解を求めていくのならば、核兵器の非人道性を訴え、国際人道法に従う重要性を語る事が、唯一の戦争被爆国としての日本の責任ではないでしょうか。これからも反戦・反核・脱原発へ向けて運動していこうと思います。

大阪支部 関谷和人



2022年8月4日から6日にかけて、大阪支部2名、中央執行委員1名で被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会に参加しました。

広島平和記念公園から県立総合体育館まで1時間余りデモ行進後、開会総会が開催されました。新型コロナウイルス感染の影響で3年ぶりの開催となりましたが約1,200名が参加しました。

今回参加して平和について深く考えさせられる貴重な話をいくつも聞きました。中でも一番心に残ったのは切明千枝子さんのお話でした。広島に原爆が投下され命からがら学校へ避難した時、その場にいた生徒は腕から昆布のように皮膚が垂れ下がり、引き摺って歩いていた。これを見た先生が皮膚を引き千切ってあげた時に、生徒は、「先生有難う。これでちゃんと歩けるようになりました。」と言ったという話は衝撃的でした。

改めて人の命の大切さ、平和の大切さを強く感じました。「今回、皆さんは話を聞きに来ましたが、これからは皆さんが話を伝えてください。」の言葉通り、多くの人に呼び掛けていくと共に、自分にできることを精一杯頑張っていきたいと思えます。

大阪支部 鳥野洋二



長崎
大会

これまで、原水禁運動に30年以上携わってきていますが、「核と人類は共存できない」を再認識すると共に、もっと運動を進めていけば、11年前の福島原発事故が止められたのではないかと自責の念を感じています。

被爆地である長崎県においては、すべての小・中・高校で8月9日は、たとえ日曜日であれ夏休み期間の登校日となっており、平和学習の後、11時2分に黙祷を捧げ下校します。自然と核兵器について意識するようになる重要な取り組みだと思っています。

私自身は戦後生まれですが、多くの親戚も被爆を受けており、長崎出身である者として77年前の実態を風化することなく生涯発信していくことが使命だとの思いを強めました。

松谷哲治



Hiroshima
Nagasaki
Peace Messenger

高校生1万人署名活動